

# 令和5年（2023年）家計調査（二人以上の世帯）の結果

(R6. 2. 29PM 差し替え。)

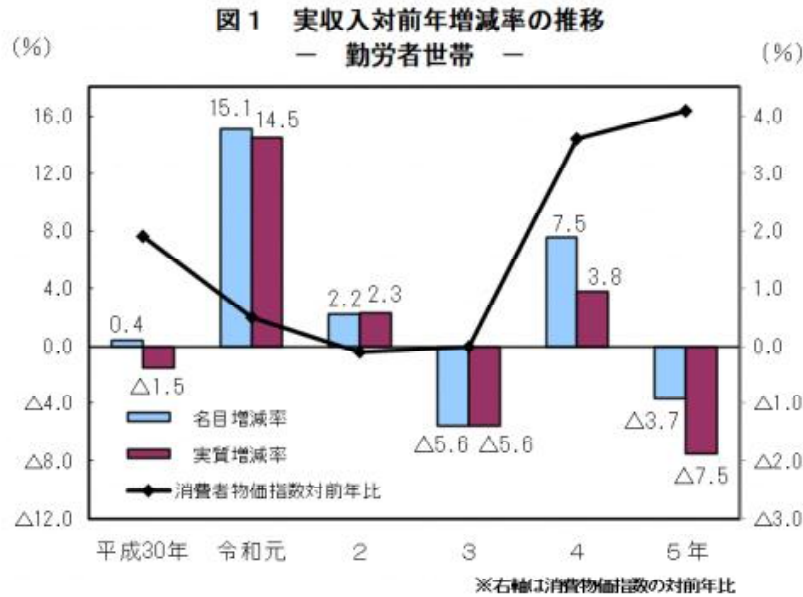
(総務省統計局－北海道分)

## 1 勤労世帯（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）の家計

(1) 実収入は実質7.5%の減少

令和5年（2023年）の北海道の勤労者世帯（平均世帯人員2.93人、平均有業人員1.66人、世帯主の平均年齢51.4歳）の実収入は、1か月平均56万3,270円で前年に比べ名目3.7%の減少、実質でも7.5%の減少となった。（統計表 第1表）

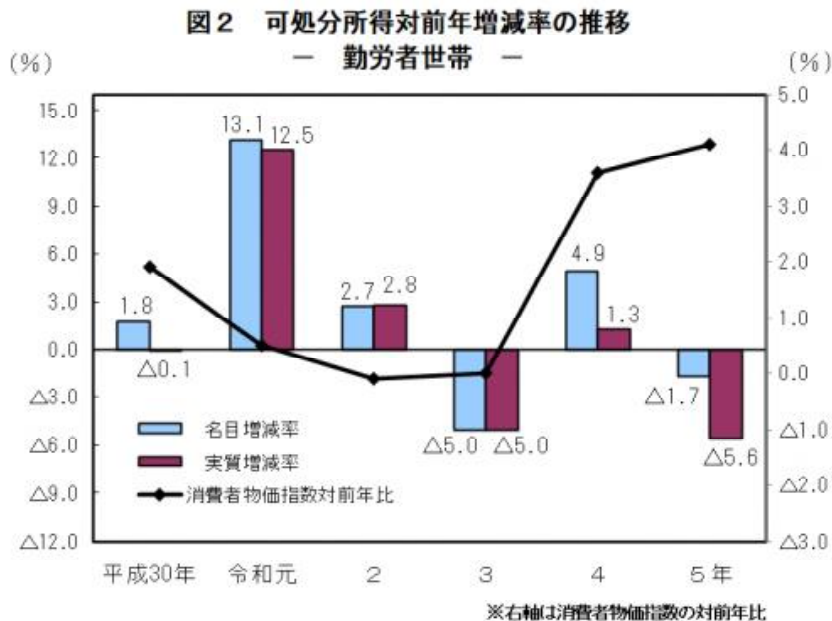
最近の動きを実質で見ると、平成30年は1.5%の減少となったが、令和元年（2019年）は14.5%の増加となり、令和2年も2.3%の増加となった。令和3年は5.6%の減少となったが、令和4年は3.8%増加となり、令和5年は7.5%の減少となった。（図1）



(2) 可処分所得は実質5.6%の減少

可処分所得は1か月平均46万4,782円で、前年に比べ名目1.7%の減少、実質は5.6%の減少となった。（統計表 第1表）

最近の動きを実質で見ると、平成30年は0.1%の減少となったが、令和元年（2019年）は12.5%の増加となり、令和2年も2.8%の増加となった。令和3年は5.0%の減少となったが、令和4年は1.3%の増加となり、令和5年は5.6%の減少となった（図2）



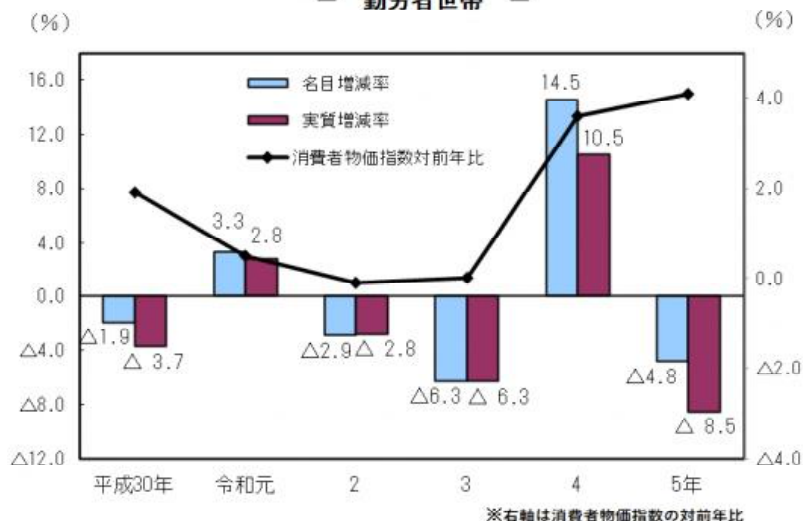
(3) 消費支出は実質8.5%の減少

消費支出は1か月平均30万2,629円で、前年に比べ名目4.8%の減少、実質も8.5%の減少となった。  
(統計表 第1表)

最近の動きを実質でみると、平成30年は3.7%の減少となったが、令和元年(2019年)は2.8%の増加となり、令和2年は2.8%の減少となった。令和3年も6.3%の減少となったが、令和4年は10.5%の増加となり、令和5年は8.5%の減少となった (図3)

図3 消費支出対前年増減率の推移

— 勤労者世帯 —

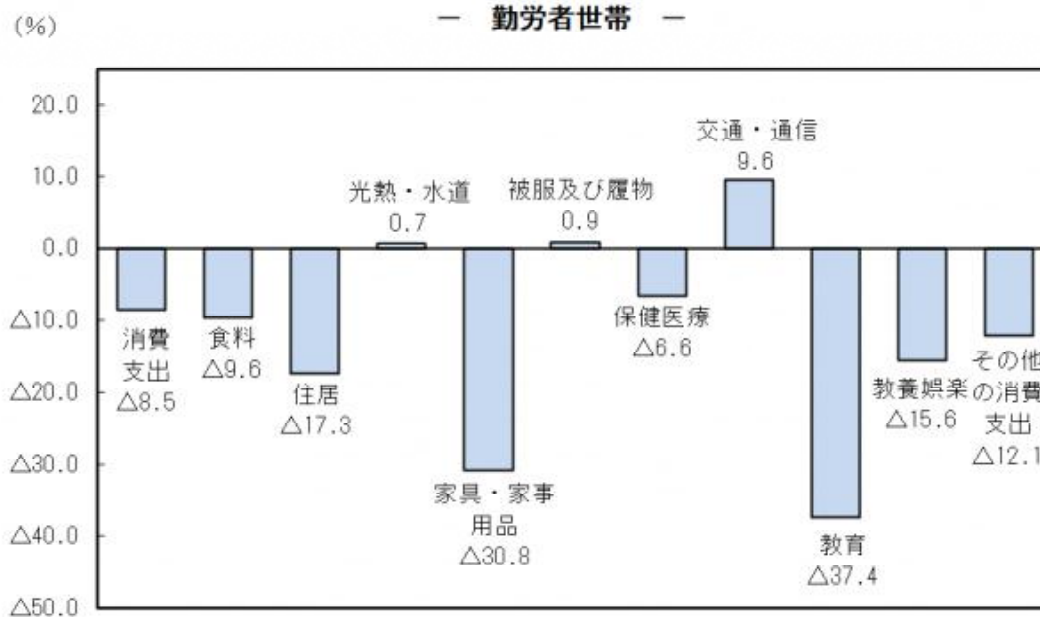


(4) 費目別の実質対前年比

勤労者世帯の消費支出を10大費目別に対前年実質増減率でみると、光熱・水道が0.7%、被服及び履物が0.9%、交通・通信が9.6%の増加となった。一方、食料が9.6%、住居が17.3%、家具・家事用品が30.8%、保健医療が6.6%、教育は37.4%、教養娯楽が15.6%、その他の消費支出が12.1%の減少となった。(図4)

図4 10大費目の対前年実質増減率

— 勤労者世帯 —



(5) 費目別構成比

1か月平均の消費支出を10大費目別に構成比で比較すると、食料が24.5%で最も高く、以下、交通・通信(19.1%)、その他の消費支出(18.2%)、光熱・水道(10.0%)、教養娯楽(8.3%)、住居(6.7%)、保健医療(4.0%)、被服及び履物(3.6%)、家具・家事用品(3.4%)、教育(2.2%)の順になっている。

全国と比較すると、交通・通信、光熱・水道、その他の消費支出、住居の構成比が高く、教育、食料、教養娯楽、家具・家事用品、保健医療の構成比が低かった。(表1)

表1 消費支出の費目別構成比 - 勤労者世帯 -

	北海道		全国	
	金額(円)	構成比(%)	金額(円)	構成比(%)
消費支出	302 629	100.0	318 755	100.0
食料	74 216	24.5	84 552	26.5
住居	20 171	6.7	18 971	6.0
光熱・水道	30 364	10.0	23 566	7.4
家具・家事用品	10 240	3.4	12 855	4.0
被服及び履物	10 850	3.6	11 344	3.6
保健医療	11 992	4.0	13 515	4.2
交通・通信	57 913	19.1	51 199	16.1
教育	6 677	2.2	16 838	5.3
教養娯楽	25 068	8.3	31 149	9.8
その他の消費支出	55 138	18.2	54 766	17.2

(6) 地方別に比較すると実収入は全国6位、消費支出は全国7位

1か月平均の実収入を、全国を100とした指数で地方別に比較すると、関東が110.3で1位となっており、次いで北陸が103.8で全国平均を上回った。北海道は92.6で6位であった。北海道と1位の関東との差は指数で17.7ポイント、金額で10万7,822円であった。

次に、1か月平均の消費支出では、関東が106.2で1位となっており、次いで北陸が101.5で全国平均を上回った。北海道は94.9で7位であった。北海道と1位の関東との差は、指数で11.3ポイント、金額で3万5,898円であった。(表2)

表2 全国・地方別の実収入と消費支出 - 勤労者世帯 -

地方	実額(円)		全国比	
	実収入	消費支出	実収入	消費支出
全国	608 182	318 755	100.0	100.0
北海道	563 270	302 629	92.6	94.9
東北	562 522	305 147	92.5	95.7
関東	671 092	338 527	110.3	106.2
北陸	631 017	323 605	103.8	101.5
東海	577 455	302 055	94.9	94.8
近畿	588 018	318 143	96.7	99.8
中国	560 244	305 228	92.1	95.8
四国	569 183	307 296	93.6	96.4
九州	545 012	301 549	89.6	94.6
沖縄	449 231	245 554	73.9	77.0

全国を100とした指数

(7) 年間収入五分位階級別家計収支

1か月平均の実収入を年間収入五分位階級別にみると、所得の最も低い第Ⅰ階級で1世帯当たり37万7,152円、最も高い第Ⅴ階級で84万6,868円となっており、第Ⅰ階級に対する第Ⅴ階級の格差は2.25倍（前年2.68倍）となった。

1か月平均の消費支出では、第Ⅰ階級で1世帯当たり23万6,616円、第Ⅴ階級で40万9,761円であり、第Ⅰ階級に対する第Ⅴ階級の格差は1.73倍（前年1.95倍）となった。

消費支出の費目別構成比をみると、交通・通信、教育、教養娯楽は、第Ⅴ階級が最も高い割合となっている。一方、食料、光熱・水道、被服及び履物は、第Ⅰ階級が最も高い割合となっている。（表3）

表3 年間収入五分位階級別 実収入と消費支出の金額と構成費 - 勤労者世帯 -

項目	年間収入五分位階級別					格差率 Ⅴ階級／Ⅰ階級
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	
世帯人員(人)	2.85	2.78	2.88	3.03	3.13	-
有業人員(人)	1.49	1.41	1.73	1.75	1.91	-
世帯主の年齢(歳)	53.3	52.6	50.7	49.0	51.3	-
(1か月平均額：円)						
実収入	377 152	409 507	532 279	650 545	846 868	2.25
可処分所得	321 145	348 802	443 140	534 589	676 452	2.11
消費支出	236 616	249 192	285 539	332 038	409 761	1.73
食料	65 565	67 470	71 256	77 788	89 004	1.36
住居	17 861	18 752	14 210	30 466	19 568	1.10
光熱・水道	27 780	27 739	28 151	31 854	36 318	1.31
家具・家事用品	7 504	8 367	10 391	13 268	11 672	1.56
被服及び履物	11 636	8 403	7 714	11 711	14 785	1.27
保健医療	9 450	10 211	10 995	16 177	13 127	1.39
交通・通信	31 639	43 218	58 489	60 531	95 688	3.02
教育	6 259	3 093	4 765	4 585	14 683	2.35
教養娯楽	18 939	20 290	22 995	27 840	35 274	1.86
その他の消費支出	40 004	41 649	56 573	57 822	79 643	1.99
平均貯蓄率(%)	21.4	24.5	33.3	33.1	37.5	-
エンゲル係数(%)	27.7	27.1	25.0	23.4	21.7	-
(構成比：%)						
消費支出	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-
食料	27.7	27.1	25.0	23.4	21.7	-
住居	7.5	7.5	5.0	9.2	4.8	-
光熱・水道	11.7	11.1	9.9	9.6	8.9	-
家具・家事用品	3.2	3.4	3.6	4.0	2.8	-
被服及び履物	4.9	3.4	2.7	3.5	3.6	-
保健医療	4.0	4.1	3.9	4.9	3.2	-
交通・通信	13.4	17.3	20.5	18.2	23.4	-
教育	2.6	1.2	1.7	1.4	3.6	-
教養娯楽	8.0	8.1	8.1	8.4	8.6	-
その他の消費支出	16.9	16.7	19.8	17.4	19.4	-

(注) 「年間収入五分位階級」とは、すべての世帯を年間収入の低い方から高い方へと順番に並べ、それを調整集計世帯数の上で五分等分して五つのグループを作った場合の各グループのことで、収入の低い方から順次、第Ⅰ、第Ⅱ、第Ⅲ、第Ⅳ、第Ⅴ五分位階級という。

「年間収入」は過去1年間の現金収入であるため、実収入を12倍したものと必ずしも一致しない。

年間収入五分位階級の境界値 - 勤労者世帯・北海道 -  
(万円)

階級	第Ⅰ階級	第Ⅱ階級	第Ⅲ階級	第Ⅳ階級	第Ⅴ階級
境界値	440	555	686	825	

(8) 収支バランス

令和5年(2023年)の北海道の平均消費性向(可処分所得に対する消費支出の割合)は65.1%となり、前年より2.2ポイント減少した。全国は64.4%と前年より0.4ポイント増加した。

黒字(実収入から実支出を差し引いたものの可処分所得に対する割合)は34.9%で、前年より2.2ポイント増加した。

金融資産純増(貯蓄純増に有価証券購入と有価証券売却との差を加えたものの可処分所得に対する割合)は31.8%で、前年より0.5ポイント増加した。

貯蓄純増(預貯金と保険掛金の合計から預貯金引出と保険取金の合計を差し引いたものの可処分所得に対する割合)は31.5%で、前年より0.3ポイント増加した。(表4)

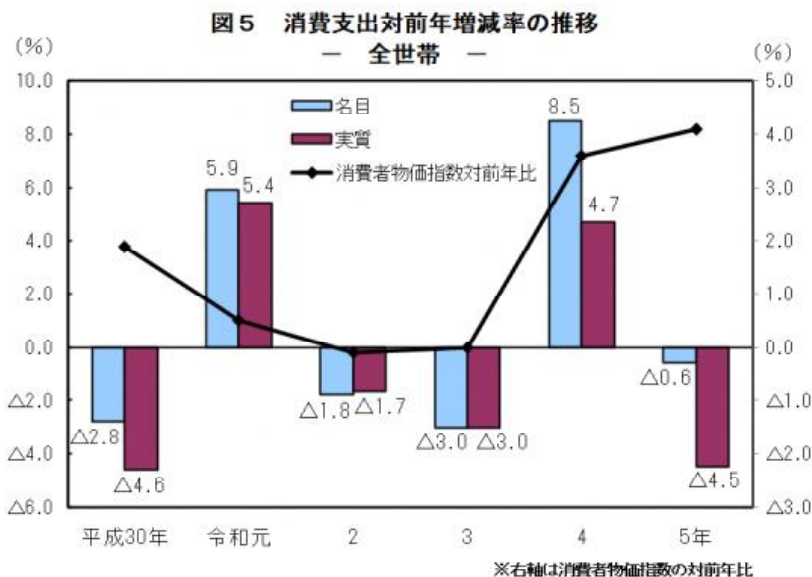
表4 平均貯蓄性向・黒字率の推移 - 勤労者世帯 -

	平均消費性向(%)		北海道			全国		
			黒字 (黒字率)	金融資産純増 (金融資産 純増率)	貯蓄純増 (平均貯蓄率)	黒字 (黒字率)	金融資産純増 (金融資産 純増率)	貯蓄純増 (平均貯蓄率)
	北海道	全国						
平成30年	72.4	69.3	27.6	23.2	23.1	30.7	27.0	28.8
令和元年 (平成31年)	66.1	67.9	33.9	30.0	28.9	32.1	31.6	31.4
令和2年	62.5	61.3	37.5	31.5	31.4	38.7	35.7	35.2
令和3年	61.6	62.8	38.4	30.9	30.7	37.2	34.7	34.2
令和4年	67.3	64.0	32.7	31.3	31.2	36.0	34.3	33.8
令和5年	65.1	64.4	34.9	31.8	31.5	35.6	35.4	34.8

2 全世帯(二人以上の世帯)の家計

(1) 消費支出は実質4.5%の減少

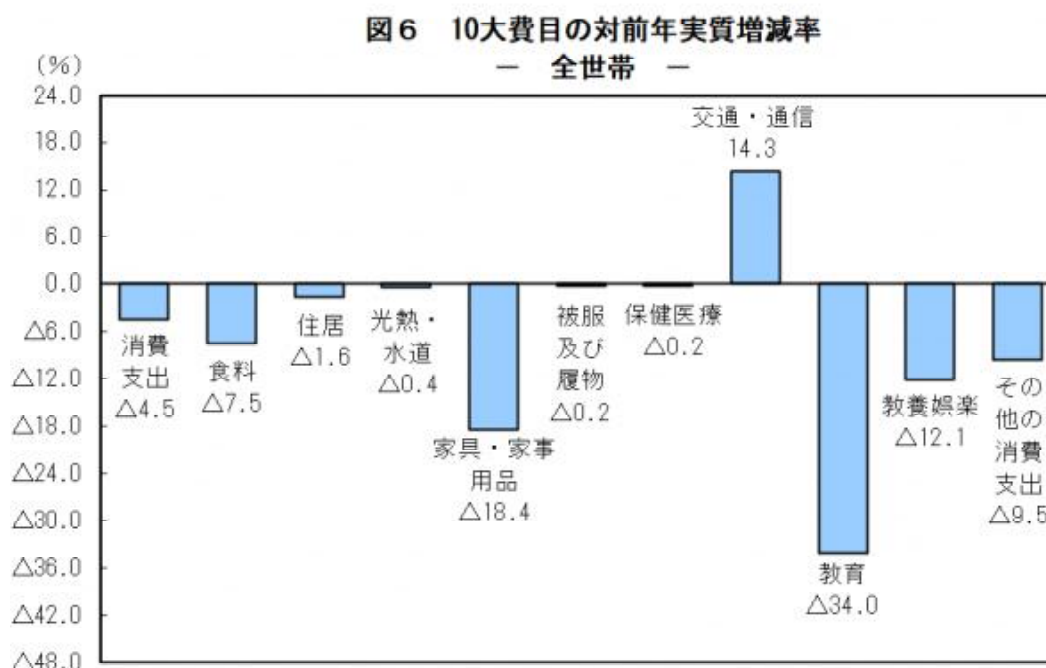
令和5年(2023年)の北海道の全世帯(平均世帯人員2.69人、平均有業人員1.17人、世帯主の平均年齢60.7歳)の消費支出は1か月平均27万9,420円で、前年に比べ名目0.6%の減少、実質も4.5%の減少となった。(統計表 第2表)(図5)



(2) 費目別の実質対前年比

全世帯の消費支出を10大費目別に対前年実質増減率で見ると、交通・通信が14.3%増加した。一方、食料は7.5%、住居は1.6%、光熱・水道は0.4%、家具・家事用品は18.4%、被服及び履物と保健医療は0.2%、教育は34.0%、教養娯楽は12.1%、その他の消費支出は9.5%減少した。

(図6)



(3) 費目別構成比

1か月平均の消費支出を10大費目別の構成比で比較すると、食料が25.9%で最も多く、以下、その他の消費支出(17.9%)、交通・通信(16.8%)、光熱・水道(10.6%)、教養娯楽(8.2%)、住居(7.3%)、保健医療(4.8%)、家具・家事用品(3.8%)、被服及び履物(3.1%)、教育(1.6%)の順となっている。(表5)

表5 消費支出の費目別構成比の推移—全世帯—

(単位：%)

費目	北海道						全国					
	平成30年	元年	2年	3年	4年	5年	平成30年	元年	2年	3年	4年	5年
消費支出	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食料	25.1	24.8	26.3	26.3	25.7	25.9	25.7	25.7	27.5	27.2	26.6	27.8
住居	6.5	7.2	7.3	7.0	7.1	7.3	5.9	5.8	6.2	6.6	6.4	6.1
光熱・水道	10.5	9.8	10.3	10.6	10.9	10.6	7.7	7.5	7.9	7.7	8.4	8.1
家具・家事用品	3.5	3.3	4.0	3.9	4.3	3.8	3.8	3.9	4.5	4.3	4.2	4.1
被服及び履物	3.6	3.5	3.2	3.0	3.0	3.1	3.8	3.7	3.2	3.1	3.1	3.2
保健医療	4.3	4.8	4.9	4.8	4.7	4.8	4.6	4.7	5.1	5.1	5.1	5.0
交通・通信	14.6	15.1	14.7	13.8	14.3	16.8	14.7	14.9	14.4	14.2	14.2	14.5
教育	2.6	2.4	2.2	2.4	2.4	1.6	4.1	3.9	3.7	4.3	3.9	3.6
教養娯楽	8.8	9.3	8.4	8.2	8.9	8.2	9.6	10.0	8.7	8.8	9.2	9.7
その他の消費支出	20.4	19.6	18.8	19.8	18.9	17.9	20.2	19.9	18.8	18.8	18.8	17.9

(4) 食料にみる消費の特徴

北海道の1世帯当たりの1年間の食品の購入数量を全国と比較すると、ほたて貝、かれいが2倍以上となっている。その他で購入数量が多い品目は、かに、メロン、さんま、さけ、ウイスキー、柿などが全国を上回っている。

一方、購入数量が全国に比べて少ない品目は、あじ、たい、ぶり、しらす干し、干しあじ、さといも、梨、桃などが全国を下回っている。(表6、表7)

表6 全国平均より購入数量及び支出金額が多い主な食品 -全世帯-

品目	購入数量(グラム)			支出金額(円)		
	北海道	全国	北海道/全国	北海道	全国	北海道/全国
ほたて貝	1 055	374	2.8	2 822	1 099	2.4
かれい	1 411	606	2.3	1 513	920	1.6
かに	706	371	1.9	2 320	1 641	1.4
メロン	2 428	1 383	1.8	1 968	965	2.0
さんま	389	235	1.7	440	398	1.1
さけ	3 228	2 068	1.6	6 627	4 889	1.4
ウイスキー	2 563	1 569	1.6	2 766	2 711	1.0
柿	2 956	1 942	1.5	1 581	1 043	1.5
乾うどん・そば	3 957	2 906	1.4	2 583	2 272	1.1
さつまいも	4 042	2 793	1.4	1 446	1 273	1.1
他の生鮮肉	2 066	1 568	1.3	4 905	3 195	1.5
塩さけ	1 548	1 203	1.3	2 870	2 393	1.2
カップ麺	5 356	4 206	1.3	6 352	5 611	1.1
たらこ	757	572	1.3	2 293	2 111	1.1

\* ウイスキーの購入数量の単位はml。

表7 全国平均より購入数量及び支出金額が少ない主な食品 -全世帯-

品目	購入数量(グラム)			支出金額(円)		
	北海道	全国	北海道/全国	北海道	全国	北海道/全国
あじ	48	665	0.1	166	999	0.2
たい	135	427	0.3	331	1 063	0.3
ぶり	348	1 307	0.3	813	2 876	0.3
しらす干し	126	361	0.3	533	1 562	0.3
干しあじ	109	431	0.3	163	601	0.3
さといも	344	1 246	0.3	278	751	0.4
梨	877	2 534	0.3	609	1 738	0.4
桃	477	1 090	0.4	593	1 158	0.5
いわし	193	423	0.5	172	424	0.4
合いびき肉	1 121	2 207	0.5	1 608	3 055	0.5
れんこん	703	1 320	0.5	582	996	0.6
さやまめ	828	1 454	0.6	919	1 777	0.5
紅茶	109	181	0.6	454	843	0.5
いちご	1 272	2 011	0.6	2 389	3 427	0.7